



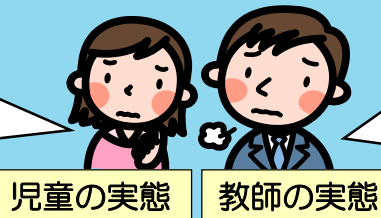
令和2・3年度 大島地区研究協力校「へき地・複式教育」 天城町立兼久小学校 公開研究会

徳之島地区三町複式極小規模校部会研修会 令和4年1月26日（水）



現状と課題

- 複式学級の学習はどう進めたらよいのかな。
- ガイド学習って何をするのだろう。
- ガイド役は苦手だ。
- ガイド学習をうまく進められない。



児童の実態

教師の実態

- 話し合いながら、学びを深め合う力を身に付けさせたい。
- 「分かった」「できた」の実感を味わわせたい。
- 複式学級での学習は、どのように指導すればよいのか。
- 単式学級のうちにできることはないか。

研究主題

思いや考えを豊かに表現し、学びを深め合う児童の育成
～複式・少人数学級における算数科での学び合いを通して～



研究の視点と取組

視点1

単式と複式の学習をつなぐ学びを支える力を育む取組

1 算数科における基本的な指導過程の統一

指導過程

- 1 つかむ・見通す
- 2 調べる・深める
- 3 まとめる
- 4 生かす・振り返る

【めあて】低学年は教師と決定
中・高学年は自分達で
決めて教師と確認

ひとりで ともだちと みんなで

直接指導で確実に見届け

「わがとも」で振り返り

2 学年に応じたガイドとフォロワーの育成

(1) ガイドの育成と役割の確認

- 学年に応じた「ガイド学習の手引き」作成

- 1・2年生→「手引き」＋教師の助言
- 3・4年生→「手引き」＋自分の言葉
- 5・6年生→自分の言葉

(2) フォロワーの育成

- 「フォロワーの心得」の作成
- 「話し上手は聞き上手」の作成

3 学習ルールと指導方法の統一

(1) 児童の学習ルールの統一

児童が進級した際も学び方の基本姿勢が継続されるようにしている。

(2) 教師の指導方法の統一

- 「板書の仕方」の確認
- 直接指導する学習活動の確認
- 「学びの足跡」の掲示
- 演習問題等の活用（書く学習）

視点2

自分の考えを明確にもたせ、表現させるための取組

1 一人一人に見通しをもたせる場の設定

- 課題の焦点化・まとめ → 直接指導

- 解決方法の選択と児童の立場の明確化

- 課題把握の確実な見届け → わたり



2 ヒントコーナー及び学びの足跡の活用

(1) ヒントコーナーの設置



- タブレット
- 具体物
- 図や数直線

(2) 「学びの足跡」の提示



- 自力解決のヒント
- 見方・考え方

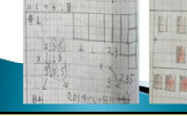
3 算数科における表現力の育成

(1) 「数と計算」領域における図の系統表の作成



- 「数と計算」領域における図の系統表の作成

(2) 考えを整理するノートづくり



- キーワードの挿入
- 図の活用
- 色の工夫

視点3

考えをいきいきと伝え合い、自他の考えのよさに気付かせる取組

1 話し合いにおける場の工夫

(1) 友達と考える場の工夫



- ペアやグループで
- 人数を考慮
- 立ったまま話し合うスタイル

(2) みんなで伝え合う場の工夫



- 児童が互いを聞き手として想定する空間

2 話し合いの質を高める手立て

(1) 教師の発問

【発問例】

○ どのように考えればよいのかな？ ○ どのところに注目したのかな？

○ 同じ考え、ちがう考えはどれかな？ ○ どうしてそのように考えたの？

(2) 発表話型

自分の考えを分かりやすく説明するための話型の活用

(3) 合い言葉「はかせどん」

児童が自他の考えを集約する際の視点

は→速く か→簡単に せ→正確に どん→どんなときも使える

3 タブレットの活用



- 写真・録画機能の活用
- 電子黒板活用による児童の考えの提示
- 間接指導時の児童の学びの記録化

公開研究会の様子（全体会 公開授業 授業研究 指導講話）



2年公開授業



2年授業研究



全体会



3・4年公開授業



3・4年授業研究



指導講話

公開研究会に参加された先生方より

- 一人学習やペア学習の時間が十分に確保されていた。また、複式学習指導を意識したガイドとフォロワーの育成が図られており、大変参考となった。
- 児童が生き生きと楽しく授業に参加し、学習していた。よかった。単式学級でのガイドの進め方が参考になった。
- タブレットを活用して考えを共有・類型化ができていたので、参考になった。
- みんな活発に意見を出していて、特に答えが出ていなかった児童もそれに臆することなく堂々と発表していて「意見を出しやすい、支持的風土」を強く感じた。